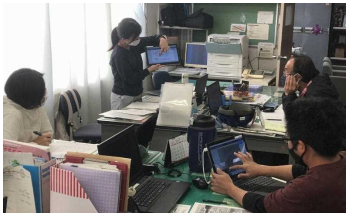
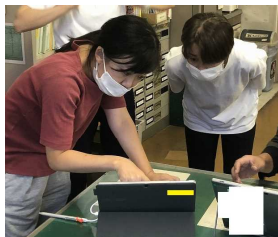



## 校内研修実施報告書

研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別学習ソフト(ドリルパーク)の操作説明</li> <li>・ 授業支援ソフト(Meta Moji)を活用して、家庭学習の課題を児童にもたせる実践例の紹介</li> </ul>
研修日時	R3年5月13日(木)15:40～, R3年10月18日(月)16:10～
参加者数	11名
研修の概要	<p>①児童が個別学習ソフト(ドリルパーク)で漢字練習を行うときに、画面拡大の機能があることを紹介し、その操作説明を若手教員が行った。</p>  <p>②タブレットを児童に持ち帰らせたときに、家庭学習として授業支援ソフト(Meta Moji)でどのように課題を与えるか、研修を行った。音読のワークシートを見て、児童が詩を音読し、その音声を録音するという課題のもたせ方について、若手教員が実践例として紹介した。</p> 
工夫した点	研修や終礼の最初の数分間という短時間で実施することで、発表者も聞く側も構えずに参加することができた。もっと知りたいという教員には、研修後に個別に教え合える場を意図的に設けた。
成果	<p>若手教員が積極的に取り組んだ実践例を紹介することで、他の教員が刺激をもらい、活用するきっかけを得ることができた。</p> <p>実践例の効果だけではなく、改善点も伝えるという構えの研修だったので、発表者が気負わずに意欲的に発表することができた。</p>
課題	授業支援ソフト(Meta Moji)を授業の中で効果的に活用する研修が十分でなく、実践に深まりが見られていない。じっくり時間をかけた研修の時間を意識的にとらなければいけないと感じている。

## 校内研修実施報告書

研修内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「GIGAスクール構想」の意義、内容、学習方法の変化について</li> <li>2 タブレット・ICT機器の基本的な使用方法、タイピング等の指導方法</li> <li>3 インターネット・学習用アプリ等を使った学習指導について</li> <li>4 「プログラミング教育事業」の研究指定を受け研修を進める。</li> <li>5 ZOOMを利用した家庭との通信、遠隔授業について</li> </ol>
研修日時	4月22日,5月13日,9月22日,10月7日,10月14日 12月7日,1月26日 (その他,新しいアプリを導入した場合には,随時研修を実施)
参加者数	34名
研修の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 GIGAスクール構想により,学習環境がどのように変わり,学習指導にどのようなメリットがあるかを理解する。</li> <li>2 児童用タブレットとその他のICT機器の基本的操作方法を習得し,それらを組み合わせた効果的な授業方法を確立する。</li> <li>3 インターネットや学習用アプリを使った学習指導方法を習得する。教育課程の年間計画に沿い,利用計画を立てる。</li> <li>4 プログラミング学習の指導計画を見直し,実践研究をする。</li> <li>5 ZOOMによる遠隔授業の方法を習得し,実際に家庭にタブレットを持って帰らせて遠隔授業を行い,問題点・改善点を確認する。</li> </ol>
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年団で計画・実践することにより,情報交換・役割分担等をさせた。</li> <li>・総合教育センターやアプリの納入業者等,専門的な知識のある外部人材を講師に招き,研修を行った。</li> <li>・石井町のICT支援員との連携強化により,教員の疑問や実践にあたっての問題点に即応できるようにした。</li> <li>・家庭との連携を図り,遠隔授業を実際に行い,教員の経験値を積んだ。</li> <li>・様々な補助金を有効に活用し,アプリや教材教具を揃えた。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は,授業でタブレットや大型テレビ,実物投影機等を使用し授業を進めていくことに抵抗があったが,慣れてくるに従い,その便利さ,効果の大きさを実感できた。</li> <li>・研究指定を受けることにより,より深く,ICT機器の利用について理解を深め,学習指導に活用できるようになった。</li> <li>・突然の臨時休校の際にタブレットを配布し,ZOOMによる遠隔授業を行うことができた。研修を進め機器の利用を実践していたおかげで,授業をスムーズに進められる場面が多かった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童用タブレットが導入されると同時に指導方法の研修も始めたので,児童のタブレット利用のスタートが遅くなった。</li> <li>・低学年児童は,アルファベットによるパスワードの利用が難しかった。</li> <li>・研修で理解していたつもりだったが,実際の利用場面ではいろいろな問題点が出て,その度に授業が止まることがあった。</li> <li>・ICT支援員が途中から他校との掛け持ちになり,自由に支援を依頼できなくなったため,新しい取り組みを始めるときは,できるだけICT支援員がいる日を選んで授業をした。</li> </ul>

## 校内研修実施報告書

研修内容	第1学年国語科研究授業 (一人一台タブレット端末を活用した授業づくり)
研修日時	令和3年12月2日(木)
参加者数	14名
研修の概要	<p>○研究授業 1学年 国語科「ものの名まえ」 ～ものの名まえをあつめておみせやさんをひらこう～</p> <p>○各教科の授業の中で、より高い教育効果をあげるために、どのような学習場面においてICTやタブレット端末をどのように活用するかを考え実践研究に取り組む。</p> <p>○今回の授業で使用したICT 大型ディスプレイ タブレット端末 (MetaMoJi ClassRoom)</p>  <p>○授業の実際 ・店で売る品物を考える際にMetaMoJi ClassRoomを使用した。グループごとにワークシートを共有し共同で品物を書き出す活動を行った。 ・グループでまとめたワークシートを大型ディスプレイに映しだし、全体での話し合い活動に繋げる。 ・次時には、話し方の練習場面をタブレット端末で動画撮影し、互いのよさや改善点を見つける活動をする。</p> <p>○授業研究会 ICT活用を含めて、授業研究会で成果や課題について話し合った。</p>
工夫した点	<p>【授業では】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT支援員と相談しながら授業展開や活用方法を考えた。</li> <li>・タブレット端末でワークシートを共有することで、児童は個別に考えながら、リアルタイムで友達の考えと交流することができ、自分の学びに生かすことができた。</li> <li>・ワークシートを共有する時には、記入欄を個別に色分けをして作成することで互いの分担箇所が明確に分かるようにした。</li> <li>・全体への説明が、タイムロスなく提示できる。</li> <li>・授業中残しておきたい指示や手引きは「板書」、発表には「ICT」と、用途での使い分けを行った。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、個別の学習場面とグループで学びを共有しさらに深めていく学習場面と、学習活動や内容に応じたICTの効果的な使い方ができた。</li> <li>・ICT支援員に授業のサポートに入ってもらったり、タブレットの使用について研修(全体・個別)の時間をとってもらったりすることで、教師・児童ともにタブレット端末活用のスキルが向上してきている。</li> <li>・学習アプリの使用方法については、総教センターの研修を受講した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科において、タブレット端末やICTをどのように活用できるかは、今後の実践や他校の取組の情報収集などを通じて、蓄積していく必要がある。</li> </ul>